

婦人と子ども

大正五年五月五日
第十六卷 第五號

保育材料の循環的排列

目白幼稚園長 和田 實

私の幼稚園でやつて見たいと思つて居りますのは保育材料の循環的排列といふ事でありませぬ。之れは前から考へて居た事でありまして。外の大きな子供の教育にも必要でありますが、幼稚園児には特に必要なのであります。大體は保育材料を一年間に一通り排列して、毎年くりかへしてゆくのです。風揚げが正月にあるとか、大抵季節によつて遊戯材料が定まつて居りますから、それを觀察して統計を取つて實行してゆけば、自然に保育案が出来るわけであります。一年間に排列を實行してしまふので三年間には三度くりかへす事になり

ます。あまりくりかへし過ぎると云ふ批難があるかもしれませぬが之れは別に差支ないと思つて居ります。たとひ同じ教材でもだん／＼程度を高尙にしてゆきます。たとへば折紙にしても、始めの時は殆んど保母が折つてやりたものを、二度目には半分手傳つて、その次にはまるつきり子供が折るといふ風に、内容をだん／＼進歩させるといふ風なのが、幼稚園程度としては自然なやり方のやうに思はれます。

唱歌の材料なども三年間にだん／＼むつかしいものを教へてゆく仕方もありませうが、一年間に

配當して毎年同じものを教へるといふ事も一方法と致します。勿論出來方に優劣はあるでせうけれども一向それで差支なからうと存じます。始めてはいつた子供のまはりかねる舌も、年長の方の正しい歌ひ方になつてゆく事が出來ると思ひます。かういふ風な仕方は管理上によほど便利があります、各組の人数を一定して入園兒のはいつて來る處はよいが、園兒の少い處、殊に小學校入學前の

大きい子供のはいつて來る處などでは、短い一年間に幼稚園教育の一通をわからせたいと思ふやうな場合に、教材を一年間に配當するのは便利な方法であります。それから一年間以上在園したものは修了書を與へる事にして居ります。左の保育案は、私が先きの幼稚園で用ゐましたのを訂正して作つたものにして、只今實行して居るものであります。

自大正五年四月
至大正六年三月

目白幼稚園保育材料豫定細目表

大正五年三月調

月	週	項目															
		直観	談話														
一	雞	及	桃太郎	雲雀は唱ひ	貼り紙	三星	折り紙	蝶	つなぎ方	一	だんご	彌次郎	兵直	線	線	園外保育	
二	み	す	み太郎	と桃太郎	赤十字	家	ノ	同	同	二	お供へ	旗	直	線	摘草		
三	雀	舌切雀	けい	けい	養	形	ピア	同	同	三	お供へ	鳥	居丸	線	摘草		
四	お玉杓子	蛙	花咲翁	影笛と太鼓	武田	菱團	扇	同	同	四	お供へ	門	螺	線	田圃		
五	蜂	犬と影	汽	車	一	松風	車	同	同	五	お供へ	梯	體	三	角富	春園	
六	草の色々	こぶとり	汽	車	こ	二	双	同	同	六	お供へ	たん	方	四	角高	馬場	
七	活動玩具	筋	の	話	て	ふ	く	日	章	七	お供へ	根	梵	鐘	梯子	渦	卷池
																	袋

八毒	草	ワシントン	風	車	さくら	提	灯	同	八	くわ	の	波	線
九蝶	かひこ	風の神と	お日様	丸と四角の	工と夫	畫	蟬	同	九	玉	子	山	木
一〇實	と葉	鳥と水	壺花	壇龜と	兔	福	助	同	十	り	ん	ご	花
一一水中	玩具	半犬と小人	花	賣子供と	風船	狐	糸掛	圓	一	蠟	燭	炭	取
一二葱	の類	董御殿	池の鯉	花	花	箱	同	同	二	と	つ	り	と
一三鳩	、兔	馬賣り	蜜	には	とり	香	箱	同	三	お	と	う	ふ
一四龜	と金魚	兔と龜	金魚	鶴	香	箱	同	同	三	お	と	う	ふ
一五水中	の虫	浦島太郎	浦島太郎	あやめと	蝶	とんぼ	茶	碗	提	げ	か	ご	魚
一六蟻	、地虫	燈臺守	立	犬と子	供	あやめ	桃	滑	り	臺	人	體	顔
一七爪		腰折雀	夕	もみ	ぢ	き	瓜	船	滑	り	臺	人	體
一八み	とんぼ	せ	金の玉	顔	切り	抜	魚	組	み	紙	一		
一九鳴	虫	金の斧	お月さま	獸	石	だ	み	だ	る	ま	車	街	燈
二〇蛇	ととかげ	田原藤太	とんぼ	魚の	合作	とんぼ	鍋	だ	る	ま	車	街	燈
二一	もろこし	一寸法師	かり	桃	太郎	ふ	木	の	實	郵	便	函	草
二二秋	草	獅子と蚊	工	夫	富士	山	真	田	の	一	ね		
二三菌		雷の家	工	夫	富士	山	真	田	の	一	ね		
二四稻		雷の家	工	夫	富士	山	真	田	の	一	ね		
二五水草	と水鳥	不思議な	天	長	節	に	ん	じ	ん	眞	田	ふ	と
二六栗	どんぐり	犬のお使	君が	代	け	し	か	眞	田	ふ	と	ん	眞
二七豕	熊	金太郎	金太郎	火	ば	ち	五	行	組	紙	同	同	同
二八菊	御殿の柱	菊	提	燈	げ	ん	ろ	く	二	同	同	同	同

考 備

二九	蓄音器生首一つ	花 瓶	井	桁	電	車	植木鉢	電	車池
三〇	モズ、ブクロ、うかれ胡弓	蝶ととんぼ	つな	継取 <small>(以下又延)</small>	橋	電	鳥	鳥	
三一	柿	額	七行な	同	三	橋	果	物	
三二	ガル、ボール	家	十行又	同	道	具	道	具	
三三	活動玩具	サクロン、タ	三色一松	同	二	おもちや	馬	車	
三四	暗箱	小さき靴	二本掛一松	同	二	おもちや	馬	車	
三五	みかん類	不思議な白	模様の	同	三	雪だるま	自	轉	
三六	鼠	家鼠野鼠	同	二	は	たみかん	軍	艦	
三七	體操玩具	獅子と鼠	同	三	みかん	鼠	自由製作	鼠	
三八	梅と鶯	物置の鼠	同	四	もんがた	人の顔	同	花	
三九	猿	猿の橋	同	五	あふぎ	うぐひす	同	梅と鳥	
四〇	猫	羅生門	同	二	もんがた	猫	同	猫	
四一	物理實驗	大江山	同	三	花	犬	同	犬	
四二	雛人形、桃	加藤清正	同	四	か	り	同	雛人形	
四三	電氣の實驗	牛若丸	同	五	うさぎ	人	同	人	
四四	牛	男 <small>(汽車の話)</small>	同	六	もみち	水牛	同	牛	
四五	馬	素箋鳴尊	同	七	おしどり	馬	同	馬	

- 一、掲げたる項目は凡て新に教へ又は指導するところのものにして之に伴ふ自由製作隨意製作は茲に記せず
- 二、此表以外尙手技用の恩物あれとも多くは一定の教授要目を要せず隨意遊び方に屬するを以て茲に記せず
- 三、普通玩具及運動具等の遊び方に就ては未だ一定の豫定を定むるに至らず故に茲に記せず

初等教育は直観からはいらなくてはならぬといふことはベストロツチ以來の原則であるにもかゝはらず之を實行するといふことはなか／＼むづかしいのであります。やゝもすればかけ圖によつたりするのがあるが、直観は直観であつて説明であつてはならぬのであります。直観は全くの直観で、實體のものにしなければならぬのであります。勿論子供が物を觀察したら、質問をする事のある場合に。之れに應じてやるといふ事はよろしい。

出来れば直観を毎週に排列して、其週間の保育の中心にしたいと思つて居ります。即ち直観したものを利用して、唱歌書き方談話などに用ゐる事が出来れば最有効だと思つて居ります。

談話の材料は、一年間に配當してくりかへしてゆくのでありますから、一年間に五十種ほどあればよいわけであります。子供が三年間居る間に三度きくやうになつても一向差支ないと思ひます。雨降りなどのつゞいた爲めに談話材料を多く要す

る場合もありませう、そんな時には餘分の教材を用意しておいて間にあはせるやうにするがよいと思つて居ります。表には模範的のものばかりをあげてありますが、此外にいくらかもつて居て差支ないと思つて居ります。紙細工は大體に於て三部分に分れて居ります。書き方なども隨意にやると云ふ事ではよいと思つて居ります。小學校に於ける書き方とは全意か違つて居ります、小學校の方では寫生が大體に於て目的になつて居りますが、幼稚園では自分の意志を發表する爲めに書き方を習はせます。案の始めに直線の練習、圓の練習などありますが、實際やる時には直線練習だから直線をかゝせるといふ事ではない、たとへば障子をかゝせるとか、鐵道線路をかゝせるとか云ふ事にして子供に興味をもたせるやうにして居ります。部分的なものと始めて練習させておいて、それから一つのまとまつた個體をあらはす事に導いて行かうと思ふのであります。たとへば前に練習した線を

應用して山とか木の書き方を教へるといふ風にします。子供は非常に喜びます、そして山といふものは木といふものはかうしてあらはすものと大體の發表の仕方を會得してゆきます。寫生に興味をもつのは小學校以上の兒童であります。

こゝでは園外保育といふ事につとめて居ります。規定してやるのは一週に一度ですが、出来るなら三度位やりたい考へであります。私はいつも園外保育をやかましく主張して居ります、直觀を擴充してゆく爲めに幼児教育には非常に大事な事でありますから。

玩具はこゝには大體フレーベルの恩物を用ひて

「エミール」の幼児教育の感懷 (三)

文學士 福 島 政 雄

三、自由の園

自然の兒は自由であるべき筈であるのに、きび

ちない人の世はすべての人の子を捕へて小さくせ

居ります。モンテッソリーの恩物も女子高等師範から送られたので併せて用ひて居ります。その外普通玩具の價値のあるものなるべく多く用ゐるつもりで居ります。種類から云へば普通玩具を最も多くして、自由遊びにはそれを用ひさせることにして居ります。

一體幼稚園は監督して遊ばせるといふ事を主とするものでありますからその方面に力を盡したと思つて居ります。普通玩具が少くて、遊ぶ材料に困るといふやうなのは幼稚園としては非常な缺點と思つて居ります。(文責在記者)